

園の輪

そののわ No.182

学校法人 甲子園学院



キスリング「ミモザの花」(甲子園学院美術資料館蔵)

CONTENTS

〈ESSAY 2022〉…………… 2	〈学園だより〉…………… 4~9
「実践・研究・教育、そして仕事とは」 東 斉 彰	幼稚園 小学校 中・高校 短大 大学
〈学院トピックス〉…………… 3	学院生の活躍…………… 10
輝く未来への女子教育 中・高等学校 「食にまつわる絵本たち」	

実践・研究・教育、そして仕事とは

東 齊 彰



本学に赴任して7年目、25年間の臨床心理実践の現場を経て広島県の大学に赴任し、本学を含めた大学教員の経験は10年余りになる。少し前に還暦も越え、援助専門家としての実践、心理学を修めるものとしての研究、大学生・大学院生を教える教育という3つの役割を通して、仕事とは何かについて、この執筆を機会に改めて考えたくなった。

まず実践について。人としてこの世に生まれたからには、自分以外の多くの人との関係なしには生きられない。育ててくれた親を始め、幼少期から続く友人、仕事仲間、研究仲間、人生とともに増えていく家族や親類、(心理臨床家にとつての)クライアントなど多くの人との関係の中で自己を育んできた。彼らへの恩返しを含め、ひいてはかかわりのあった人全員が、自分とのかかわりでさやかにでも幸せや生きがいを感じてもらいたい。その延長上に、生業とする臨床心理学的援助の実践があると考える。

次に研究について。20代後半に臨床心理士資格を取得し、長らく医療機関を中心に実践に携わってきた。実践現場では研究するという発想はなかったが、心理療法や心理検査に日々勤しむ中で、人間の心はどのように構成され、どのように機能し、どのようなかわりが人の心を癒すのかについて強い興味を持ち、学会発表や論文執筆、講演を重ねるにつれ、いつのまにか研究として実を結んでいた。著書や論文、学会抄録、翻訳など公にした文献もおそらく50本を超え、日々努力した成果が形となって表れたことを今になって誇らしく感じる。

最後に教育について。こちらも、実践に励んでいるところは想像もつかなかった仕事で現在していることになる。大学教員は研究することが本務だと思っていたが、今どきの大学教員は学生一人ひとりのきめ細かなかわりが求められる。特に本学は、学部で公認心理師の教育、大学院では臨床心理士・公認心理師の教育と養成を行っているので、本学のうたい文句である少人数教育制も加わって、授業以外でも毎日何人かの学生、院生とマンツーマンで教育や指導、時に相談に携わっている。慕ってくれる(慕ってくれなくても)学生、院生はやはりかわいい。この子たちによりよい教育と人間形成を願う日々である。

さて、以上の実践・研究・教育の各業務を振り返ってきて、(自分にとつての)仕事とは何かをまとめてみたい。この3つの業務に共通するのは、やはり人の役に立つことだろう。実践はもちろん対人援助だし、研究は(大げさかもしれないが)積み重ねてきた知見を人類全体に還元し、ささやかながらも幸福の実現に資すること、そして教育は豊かな人間性を育むことに貢献することである。仕事とは、日々のたゆまぬ自己研鑽によって培った自分の知識と技術を世に還元し、それをもって人類の幸福に少しでも役立つよう努力するという、人間に課せられた使命ではないだろうか。

あずま なりあき ●甲子園大学心理学部教授、発達・臨床心理センター長

関西学院大学大学院文学研究科博士前期課程修了(文学修士)、大阪心理療法センター所長・九州大学病院心療内科文部技官・一般財団法人住友病院臨床心理科主任・広島国際大学大学院心理科学研究科実践臨床心理学専攻教授を経て現職。

輝く未来への女子教育

学院中学校・高等学校

二十一世紀に入り、世界はこれまで経験のない課題に直面しています。それらの問題は限定的なものではなく、社会全体に広がり、

混乱の度合いを深めています。そのような状況下で、必要とされる資質・能力も変化してきました。

リーダーシップのあり方も、一人のリーダーが先頭に立って集団を統率するというものから、「サーバント・リーダーシップ」というあり方に変化してきていると言われています。

サーバント (Servant) の意味は「受け入れる」「支える」「励ます」「力を引き出す」「一緒に行う」というものです。これは今までの経験だけでは通用しない社会において、状況を理解し、課題を解決し、個人・グループ・社会がより良い方向へ進むために必要と考え方です。実は、「サーバント・リーダーシップ」が求めているものは、女性が本来持っている

特質と重なる部分が殆どです。だからこそ特質を磨き、その能力を開花させた女性がこれからの社会には必要です。また、男性と女性それぞれの役割を互いに担い、家庭・地域・社会を築いていくことが求められるのです。

このような社会の変化を受けて、日本の女子教育は第二ステージを迎えています。女性の特質を学校教育の中でいかに伸ばすのか、これが本ステージの課題です。女性が自分の能力を知り、その可能性にチャレンジするためには、様々なことに取り組む経験が重要です。特に、思春期に様々な経験をし、その経験に基づいた思考の積み重ねができるかどうかは、その後の一生に大きな影響を与えます。社会に出て多くの人と関わる生活をする前に自分自身を見つめ、自分の可能性を知ることが大切です。

しかし、この時期に女子が他人の目を気にしないで色々なことにチャレンジすることは、それほど容易いことではありません。そこで必要になるのが、女子の特質を理解し、可能性を大きく開花させて自己をしっかりと作り上げていく女子教育の場です。

本校では、異性の目を気にすることなく、女子だけですべてのことに取り組み、成し遂げます。新しいことにチャレンジし、新しい発見をしながら成長している姿を私たちは目にしています。力仕事



を必要とする行事の準備でも生徒たちが担うなど、様々な学校生活を通じて、「自分らしく輝き」過ごすことで自身を大切に思い、また他者を大切に思う心を生徒一人ひとりが育んでいます。その心が女子の特質を育む根幹となり、社会で活躍する礎となります。

「食にまつわる絵本たち」

コロナ禍で「おうち時間」が増えた今、改めて絵本を楽しんでみませんか？絵本は子どもの読みものだと思っている方が多いかもしれませんが、大人になってから読んでも楽しめる絵本はたくさんあります。この機会に是非、絵本の楽しさを再認識してください。

「にっぽんのおにぎり」

あなたの好きなおにぎりの具材は何ですか？

日本全国それぞれの土地で愛されている



おにぎり、写真付きで四十七都道府県ごとに紹介されています。その地方の歴史や風土も載っている大人も楽しめる一冊です。(理論社・発行)

「ああ、アジのひらきがたべたいっ！」

かねまつすみれ・作
青山友美・絵



店先で狙っていたアジのひらきを、しましまのネコに横取りされてしまったネコのおいら。「あのとき、こうじゃなかったら…」と今さら悔やんでも遅いけれど、食べたかった！と思えば思うほど、頭の中にはアジのひらきしか浮かんでこない。とうとう道に落ちていたビーチサンダルもアジのひらきに見えてきて…。はたして、おいらはアジのひらきを食べることができるとか、読み終わったら「アジっ！」と叫びたくなるかもしれません。(文研出版・発行)

「そだててあそぼう16」

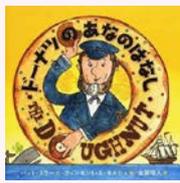
ラッカセイの絵本
すずきかずお・編
ひらのえりこ・絵

ラッカセイとピーナッツが同じ食べ物だと知っている人でも、土の中でサヤ(殻)をつくる不思議な生態のことは知っていません

か？ピーナッツって木の实じゃないの?! と思った人、ぜひこの本を、読んでみてください。サヤ(殻)はどうしてシワシワなの？一本の苗からいくつとれるの？来歴や特性だけでなく、炒る、ゆでる、加工するなど、おいしい料理法も紹介されて、ラッカセイのすべてが載った一冊です。(社団法人農山漁村文化協会・発行)

「ドーナツのあなのはなし」
パット・ミラー・文
ヴィンセント・X、キルシュ・絵

どうしてドーナツには穴があるの？理由があるのです。一八四七年六月二十二日、十六歳のハンソン・グレゴリーは船でコックの助手をしていました。揺れる船中での料理に苦労しながら、ハンソンが発明した「あななきーキ」は船乗りたちに大好評。それが世界中に広まって今のドーナツになりました。ドーナツ誕生の物語と楽しいイラストで描かれたノンフィクション絵本です(廣済堂あかつき・発行)



運動会

10月9日(日)



懸命に走り、次の友だちにバトンを手渡しました。年長児の「クラス対抗リレー」では、一人ひとりが力を出し、真剣な表情で走りまわりました。子

三年ぶりに幼小合同運動会が開催されました。当日は曇り空で雨の心配もあり、予定を少し早めて開始しました。子どもたちは日頃の練習の成果を、朝早くからお越しいただいた保護者の皆様の前で十分に発揮することができました。幕開けとなった、幼小合同運動会伝統競技「大玉おくり」では、年少組から小学六年生まで、トラックにそって体より大きな大玉を力を合わせ方向を考えながら転がしてゴールまで繋げました。接戦となったこともあり会場全体が大いに盛り上がりました。年少児の「かけっこ」では、初めての運動会で緊張しながらも、ゴールテープに向かって力いっぱい走りまわりました。年中児は「折り返しリレー」です。バトンを握って

私たちは、勝つことの喜びや負けるとの悔しさを感じながら、競い合う楽しさ、充実感を得ました。各クラスでの日々の作戦会議も楽しみの一つになっていました。

全園児によるリズム「キラキラ輝け☆甲子園KIDS」では、子どもたちが元気いっぱい演技を披露しました。年少児は手にキラキラのいろいろな色のポンポンを持ち、保護者と一緒に飾り付けしたセーラー襟を付け「きみイロ」の音楽に合わせて可愛らしくダンスをしました。年中児はカラー軍手と腰にベルトを身に付け「ポポポポポズ」の音楽に合わせて元気に踊り、自分で考えたポーズを決めました。観客の方も楽しくリズムののってくださいました。



年長児は「春玄鳥」の音楽に合わせて、カラフルなバラバラのルーンを持ち、吹く風に負けない力強い演技を見せました。最後に子どもたちがバルーンの中に入って隠れ、それぞれクラスで考えたポーズで再び現れました。年長児らしいキビキビとしたパワフルな演技に、たくさんの拍手をいただきました。

マリーゴールドの染め物

年中組

十月二十六日、年中児は種から育てたマリーゴールドの花で「染め物あそび」をしました。事前にお家の人と一緒に輪ゴムをとめた白いハンカチを、ボラソ、ボラソ、ボラソのお母さんたちと協力して、咲き終わったマリーゴールドの花が入った大きな鍋



縫い物

年長組

毎年、年長児になると縫い物に挑戦します。五月、爪楊枝を針にして先につけた毛糸を糸に見立て、スチレン皿を使って、裏と表と裏と順番にランニングステッチをして手順を覚えさせました。自分が思った場所に針が出てこなかったり、間違えてやり直しをしたりしましたが、コツを覚えると「縫い物って楽しい！」「もつとやりたーい！」という声が聞こえてきました。そして六月、父の日のプレゼントには、フェルトに本物の針と糸を使ってランニングステッチをし、飾りをボンドで貼り、コース

ターを作りました。針を手にした子どもたちの表情は得意気な様子と緊張感が入り混じっているようでした。「喜んでくれるかな？」と友だちと話をしながら完成させた作品。「すごいね！ついで褒めてくれた」「会社を持って行って使ってくれていいんだよ」と、嬉しそうに話をしてくれました。そして九月に入りタオルを使って、ぬいぐるみ作りを始めました。久しぶ



の中にいれました。「どんな色になるのかな?」「黄色になるのかな」と子どもたちは、真剣な眼差しでその様子を見ていました。ハンカチがザルにあげられると「やっぱり黄色だ!これからどうなるのかな?」と不思議そうな表情をしていました。色止めのためのみよばんの白い液につけると「赤い花もあつたから赤色になるんじゃない?」とか「可愛いピンク色になったらいいな」と子どもたちの期待はどんどん膨らんでいきました。ザボンと白い液をくぐったハンカチは、黄色のまま。嬉しそうなお母さんたちも残念そうなお母さんの表情が見られました。

分たちの順番!とハンカチをジャブジャブ、ゴシゴシと洗います。「全然白くならないよ」「染め物あそびだから黄色のままだよ」「そういうことだね」と子どもたち同士で納得していました。最後に、脱水されたハンカチは再び子どもたちに手渡されました。「さあ輪ゴムを外してみよう」「固く縛られた輪ゴムを外した瞬間、「わーきれい」「こつちもだ。白い模様ができていますよ」と子どもたちの感動と驚きの声部屋いっぱい広がりました。このようないくつかの過程を経た白いハンカチは、「世界で一枚だけの素敵な模様の黄色のハンカチ」になり、お弁当包みになります。

りの縫い物でしたが、手順を間違えることもなく丁寧に縫い合わせ、ウサギ、ハチ、ワニ魚などいろいろな生き物を作りました。自分が作りたいものを絵に描き、何度もそれを見ながら目鼻口手足をつけました。完成した作品は、世界に一つしかない素敵な宝物です。ほおずりしたり、なでたり、名前をつけたりしながら大切にしている様子は充実感でいっぱいでした。



幼小合同



低学年は、リズム演技でNHKのSDGs番組シリーズ「ひろがれ！いろとりどり」のテーマソングである「ツバメ」の曲に合わせてダンスを踊りました。生き物と人間の共生、そして未来に向けての夢を表現しました。

「ころがせ地球」では三人一組となつて走りながら大玉をころがしました。声を掛け合い協力してゴールに向かう姿に大きな拍手での応援がありました。

高学年のリズム演技は北海道の民謡である「ソーラン節」をアッ

ブテンポにアレンジしました。力強い動きと迫力ある掛け声に、演技終了後、会場に感動を



呼び、園児たちからも「かっこいい！」という声があがりました。「棒引き」では各チーム作戦を立てて棒を一齐に引っ張り合いました。



リレーでは、低学年高学年ともに番狂わせが見られ、手に汗握る勝負となりました。

子どもたちは、運動会の練習を通して、自分自身の力を発揮すること、友だちと切磋琢磨すること、協力することの大切さを味わい、心も体もたくましく成長しました。この経験を通して、この先もつと成長する子どもたちにエールを送ると共に、ステップアップできるように指導していきます。

準備と片づけ

テント設営、フェンスの移動などの会場準備には、中高の先生方と中高バレーボール部の皆さん、また、運動会終了後の撤収作業には、保護者の方々にもお手伝いいただきました。

多くの方の協力をいただき、三年ぶりの幼小合同運動会を無事に行うことができました。

学習発表会Ⅰ(舞台発表)

十月十三日

今年も会場での鑑賞に加え、オンラインでも同時配信をしました。

一年生は、SDGsをテーマとした発表で、元氣いっぱいな斉唱になりました。二年生は、いちごひめが魔法にかけられて笑いあり、感動ありの音楽劇。三年生の国語劇は、怪盗と昔の友だちとの友情が描かれた話で、バク転などのアクシオンシーンも盛り上がりました。



四年生は、英語劇で「浦島太郎」を演じました。ノリノリのダンスもあり見応えたっぷりでした。五、六年生の音楽は、合奏、リコーダー奏に加えパーカッションも行い、体全体で音楽を表現しました。

五、六年



生の国語劇は天国への行き方がわからない幽霊を子どもたちが助けたようとしたお話でした。海賊や死神も登場し、感情豊かな表現で演技しました。

遠足(ニジゲンノモリ)

十月二十八日

全校児童で淡路島にある「ニジゲンノモリ」へ行きました。

一年生〜三年生は、ナルトエリアで立体迷路や謎解きに挑戦しました。四年生〜六年生は、ゴジラ・クレヨンしんちゃん・ドラゴンクエストエリアの中から自分が行きたいところを選択し、巨大アスレチックやジップライン、フイー

すばらしい先輩たち

杉本凌一



第五十八期生
北海道大学
法学部三年

大学で民事訴訟法を中心に法学を勉強しています。ゼミの課題などで苦労する面もありますが、友人にも恵まれ充実した大学生活を過ごしています。

さて、今回先輩として児童の皆さんに、これからの学校生活において個人的に重要なと思うことを一つ伝えたいと思います。それは、自分の身近な友人や先生方の尊敬できる側面を積極的に探すことです。例えば、成績の良い人は頭が良いからこの結果が出せているのでしょうか。自分が気づいていないだけでその人はかなりの努力をしているはず。また、周りから慕われている人も知らず知らずのうちに他人に対して思いやりがある行動をとっているのです。これから周りと接していく中で意識的に感じてみましょう。案外その人の長所が見つかるかもしれません。短所を見つけるより長所を見つけるほうが人間関係というのは円滑になるものです。

ルDRPG体験をしました。午後は、大きな芝生広場で昼食をとったあと、ボールやフリスビーを使って遊んだり、芝生の坂をすべり下りたり、鬼ごっこをしたりして遊びました。秋晴れの下、楽しい遠足になりました。



甲子園学院小学校の先生方は、時に優しく、時に面白く、時には厳しく接してください。私たちの人間的な成長に大きく関わってくださいました。これは卒業して十年程度経過した現在も変わらないものと私は信じております。小学校六年間は長いようで短いものです。今のうちにいろいろな経験をして、その中で先生方の教えや友人の長所を吸収して成長し、卒業してもなお楽しかった思い出として残る学校生活にしてください。

修学旅行

高等学校三年生は六月十三日より四泊五日の日程で東京・北海道方面へ修学旅行に行きました。

第一日 まず新幹線で東京へ。靖国神社参拝がこの日最大の行事でした。賑やかな境内とは打って変わり、本殿は都心とは思えぬ静寂に包まれていました。厳肅に執り行われた参拝は、英霊に祈りを捧げると共に、私たちの国が歩んだ道のりの光と陰に思いを馳せる時間となりました。



事前学習は「祝る」「合祀」など言葉の読みと意味の習得から始めました。そして参拝所作や靖国の歴史へと学びを進めたのち、訪問目的が「平和学習」であることを確かめました。しかし小中で訪ねた広島、長崎、沖縄でのそれとは随分質が異なります。彼らで学ぶのが「戦時下の庶民の物語」であるなら、この地で向き合うのは「国を守るために戦った人々の物語」でした。両者を同時に胸に落とし込むことは至難の業です。

が、参拝後、遊就館を見学し、遺書や遺品に触れることでその理解が深まりました。その後浅草と東京スカイツリーを訪ねました。

第二日 早朝羽田を発ち、空路札幌へ。訪問先の「定山溪ファーム」では、好天の下、イチゴの剪定を体験しました。現在、日本の食料自給率は先進国中最下位。また農業従事者の平均年齢は上昇が止まりません。農業に興味を持ち、未来に灯りをともす生徒が出てくることを願いながらこの地を後にしました。



第三日 この日は昼過ぎまで、班別の札幌探索。市内名所は本校生の笑顔と歓声で溢れました。事前に興味ある行先を調べ、計画を立てただけに、足取りも軽やかです。アプリを駆使しての移動はさすがデジタルネイティブ世代と感心しました。夕刻からは留寿都へと移動しました。

第四日 午前はラフティングに挑戦。小雨で水量の増した尻別川は絶好のコンディションです。出発前は不安の表情が覗く生徒もいましたが、いざスタートすると、皆エナジー全開！大声で励まし合いながら、激流を下りきりました。

午後は選択アクティビティ。乗馬体験の雨天中止は残念でしたが、サイクリング、クラフト製作、生キャラメル・アイス作り、各自楽しいひとときを過ごしました。



第五日 最終日は小樽へ移動し、班別に市街地探索を行いました。スイーツや特産品の店での買い物やオルゴール館の見学などで楽しめました。夕刻、千歳空港から関西空港に到着。西宮、尼崎の二方面のバスに分乗し、解散。全員無事に帰宅しました。

七月十五日、西宮市民会館（アミティベイコムホール）で、コーラスコンクールの代替行事であるミュージック&ダンスフェスティバルを行いました。ホールを借りての行事は二年ぶりになりました。

ミュージック&ダンスフェスティバル

フェスティバルの中心は吹奏楽部の演奏でした。前半はマーチ「ブルー・スプリング」やバレエ音楽「中国の不思議な役人より」などが演奏され、会場を魅了しました。後半では吹奏楽部の伴奏の

もとで中高教員や有志の生徒による歌唱や、ダンス部による踊りがありました。歌唱では教員や生徒たちのデュエットもあり、息の合った歌声が響きました。自然と拍手がおこるなど、会場の一体感が高まりました。ダンス部は「ラ・ラ・ランド」



の楽曲を使って発表しました。男性役と女性役に分かれ、優雅な踊りを披露しました。部員たちにとっては、舞台上に立てる数少ない機会でしたので、貴重な体験となりました。最後は会場にいる全員で、なにわ男子の曲に合わせて踊り、大いに盛り上がりました。久しぶりの校外での行事ということもあり、生徒たちはとても楽しむことができました。

オープンスクール

学習塾教員対象説明会

七月から十一月にかけて、全六回の日程でオープンスクールを開催しました。新型コロナウイルス対策を徹底しながら、今年度からスタートした高等学校新コースミニ説明会をはじめ、例年好評の部活動体験、校舎見学等多くの児童・生徒・保護者の方々に学校の雰囲気を感じていただきました。

九月二十八日、学習塾教員対象の学校説明会を行いました。中学校での取り組みや高等学校新コース制ならびに、令和五年度入試の概要等について説明しました。



文化祭

九月十七日、「コロナ禍の中でも楽しめるものを」をテーマに、文化祭が開催されました。感染予防のため、高校三年生のみ一家族二名まで来校可能となりましたが、保護者の方も楽しんでいただけました。生徒たちは「料理対決」「チョコペンアート」「仮装」「動画」のいずれかに取り組みました。「料理対決」ではごはん部門、スイーツ部門に分かれ、各班でレシピを考えました。見た目と味にこだわった一品を文化祭当日に料理し、審査員の先生方に試食していただきました。「チョコペンアート」では、前日に直径十五cmのクッキーを焼き、当日に予め考えていた図をチョコペンで描きました。「仮装」は各クラスでテーマを決め、生徒たち自らが仮装し校舎内を練り歩きアピールしました。



「動画」は甲子園学院中学校・高等学校をPRすることをテーマに、各クラスで一〜二分の動画を制作しました。アニメーションを作ったり、先生たちへのインタビューや学校生活の様子を撮影したりするなどの作品があり、どれも力作ぞろいでした。また、ダンス部が講堂の舞台で発表し、有志のグループがエントランスの舞台上で歌やダンスを披露しました。多くの観客に見ていただき盛り上がりました。体育館では、ストラックアウト、ディスクゴルフ、ボールカーリング、写真スポットを企画し、生徒たちは楽しくゲームに興じていました。五階講堂前には、トリックアートやインスタ映えのする写真スポットで、映える写真を撮っていました。「謎解きスタンプリー」では、謎解きに挑戦しながらスタンプを集めました。苦戦しながら、先生たちにヒントをもらって生徒もおり、熱心に取り組んでいました。後日「料理対決」「チョコペンアート」「仮装」「動画」については、生徒による投票が行われました。優勝チームは次の通りです。



芸術鑑賞

九月十二日、高等学校一年生から三年生は梅田芸術劇場メインホールで「ミス・サイゴン」を鑑賞しました。「ミス・サイゴン」は「レ・ミゼラブル」のクリエティブ・チームが手がける第二弾として製作され、日本では一九九二年から一年半の帝劇ロングラン以来、通算上演回数が千回を超える大ヒット作です。

物語の舞台はベトナム戦争末期のサイゴン（現在のホーチミン市）でした。戦争末期の混乱状態の中、「愛」をテーマに登場人物の感情を歌で表現することで物語が進んでいきました。生徒にとってこの作品は話の流れがわかりやす



かりや、感情移入がしやすいよ。うで「歌唱力がすごくて楽しめた」、「主人公の覚悟に感動した」といった感想がありました。また、本格的なミュージカルを見た経験が少ない生徒も多く、圧倒的な演技力や歌唱力、舞台装置、音響効果などに驚くとともに魅了されています。

高校一年の新コース

プレミアムステージは、昨年度での「国公立」「難関私立」「看護系」コースが相当します。朝のホームルーム前に本を読む姿や、参考書を広げて学習に励んでいる生徒もいます。それぞれの思うところの進路を模索しながら日々勉強に励んでいます。スタンダードステージは、これまでの「五年一貫幼児教育」「生活デザイン」「総合選択」コースが相当します。授業において基礎学力の定着をはかりつつ、将来の進路形成に向けた探究活動を行っています。両コースの共通した夏休みの宿題では、冊子からさまざまな職業人について学び、感想を書きました。今後の進路実現につながっていくことを願っています。

進路活動の取り組み

高校三年



高校三年生は夏休みを利用して、進路活動に取り組みました。内部推薦組、就職組は夏休み明けに必要な書類の準備を行い、自己分析や希望進路先の訪問などに多くの時間を費やしました。指定校推薦組は学内審査で受験校が決定し、説明会で諸連絡を受けました。教職員は全員が望む進路に進めるように書類の添削や面接の練習など全力でサポートしていきます。

大学祭(スポーツ・ビンゴ大会)

Happy dum dum



秋が深まりゆく中、十月二十九日に大学祭を開催しました。

午前は、球技大会でした。バスケットボールではボールを取り合う躍動感あふれるゲームを展開。シュートが決まった瞬間に歓声が上がリ、観戦者も一体となって会場は盛り上っていました。ドッジボールではコート内を力一杯駆け回り、コロナ禍での運動不足を解消していました。

午後は、お手玉を使ったジャグリング、楽器演奏、ダンスなど有志による余興から始まり、会場を盛り上げました。そして皆がお待ちかねのビンゴ大会では、欲しい商品を狙ってゲームを楽しみました。学友会役員を中心に、クラス委員が相談して準備してきた大学祭。学生生活の思い出の一ページになりました。



にしのみや 市民祭りに参加

十月二十二日「第四十七回にしのみや市民祭り」の大学コーナーにおいて、「みんなみんな集まれの空」を実施しました。コロナ禍で市役所周辺の実施は三年ぶりとなりました。



ワールドワーク研修 大塚国際美術館

九月十七日、II回生が徳島県にある大塚国際美術館へワールドワーク研修に出かけました。同美術館は、古代壁画から世界二十六カ国、百九十余の美術館が所蔵している西洋名画千余点を陶板で原寸大に忠実に複製し常設展示した日本最大級の「陶板名画美術館」であり、日本に居ながらにして世界の美術館を体験できます。

境学科I回生合わせて十五名が参加、スケッチブックシアターや塗り絵などを実施し、多くの子どもたちの歓声が響く、熱気あふれるブースとなりました。学生は、準備をした企画が子どもたちに喜んでもらえて、充実した時間を過ごすことができました。昭和四十八年から始まり、今回で四十七回目を迎える「にしのみや市民祭り」。目的とされる「市民相互の理解と連帯を深め、生活文化の向上と郷土西宮の発展に寄与すること」に、本学も大いに貢献できた祭りになったことを学生は実感していました。



九月十二日にII回生が、高野山研修を行いました。学生たちは甲子園学院物故者慰霊塔へ参拝した後、一山境内地と称される自然豊かで清涼な境内を散策し、金剛三昧院で精進料理を美味しくいただきました。新型コロナウイルス ウイルス感染症拡大の影響で二年ぶりとなる参拝でしたが、建学の精神への誓いを新たにした意義深い研修になりました。

高野山研修



コンクール結果発表

今年度で八回目を迎えた高校生エッセーコンクールは「多様性を認め合う社会づくりのために」をテーマに取り組めること」をテーマに昨年を上回る四百十九点の応募がありました。また、三回目となる絵本コンクールには、仕掛けが動いたり、折紙や布を素材に使うなど、工夫を凝らした力作が多数集まりました。なお、絵本コンクール入賞作品は読み聞かせ動画にして、短大インスタグラムなどで公開中です。ぜひご覧ください。

イネーブル ガーデンの四季

秋から冬を迎え、サツマイモ、サトイモ、ニンジン、ダイコン、ラッカセイなどの収穫が始まりました。特に土の中から赤紫色のサツマイモが顔を出すと、「うわー、きれい」「おいしそう」などの歓声がイネーブルガーデンに響きました。掘りあげたサツマイモを一つずつ秤で量って、調理方法を考える時は、誰もがワクワクしていました。



土の中から掘り出して収穫したばかりのラッカセイ



今年度も豊作! 良い出来栄です

草花や野菜の栽培は、土に触れる機会の少ない学生には貴重な体験です。視覚、聴覚、味覚、嗅覚、触覚(五感)への刺激が学生の豊かな感性を育みます。



木から直接、収穫ができるのもイネーブルガーデンの良さ!

「マーケティングと心理学」の科目では、マーケティングの中に人の行動や心理のあり方から影響を受けるプロセスを見つけ、心理学をビジネスに生かす力を養います。七月八日、日本毛織株式会社執行役員であり、一般社団法人ニッケ教育研究所理事長も兼任されている楠本景央先生をお迎えし、第一回特別講義『魅力ある商品づくりと市場創造』〜消費者ニ

**マーケティングと心理学
特別講義**

ズの理解とウォンツの創出〜」を実施しました。
楠本先生は、繊維業界について、また、日本毛織株式会社におけるスクールユニフォーム「MIRAIZ」に

十一月三日、新型コロナウィルスの流行により中止していた紅葉祭を、「再始動〜Restart」の合言葉の下、三年ぶりに開催しました。また、紅葉祭に合わせ、感染症の影響を受けた様々な行事ができなかった時期を過ごした卒業生を対象に、ホームカミングデイを実施しました。ステージや講堂では、吉本興業所属芸人によるお笑いライブ、学生と教職員の楽しい歌やダンス、



ら熱心に講義を受けていました。マーケティングの捉え方や消費者のニーズの把握、またウォンツの創出の意味について、メモを取りながら



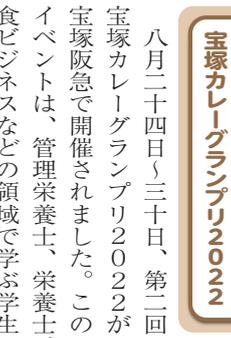
関するさまざまな事業戦略について講義されました。学生は、マーケティングの捉え方や消費者のニーズの把握、またウォンツの創出

の理解とウォンツの創出〜」を実施しました。

近隣の自治会が運営する模擬店では長蛇の列ができるほどの賑わいをみせていました。ホームカミングデイでは、卒業生が懐かしいピデオの鑑賞や恩師との歓談を行い、さらに模擬店やステージなどを楽しんできました。保護者や高校生、近隣の方々や遠方からも多くの人々が甲子園大学に集い、およそ千二百名の来場者がありました。



本学は八月二十四日に地元の大



三回生が積極的に進行役を務めており、学生の主体性を育むという面でも有意義な企画でした。

印象的でした。

サイコカップとは心理学部の運動会です。コロナ禍のため中止されていましたが、三年ぶりに行われました。学生たちにとって初めてでしたが、楽しそうに取り組んでいました。学年の垣根を超えた八チームに分かれ、バスケットボール・綱引き・借り物競争の三競技を行いました。上級生と下級生が力を合わせて競技に臨む姿勢が印象的でした。



**サイコカップ
十月十三日**

販売で売上高を競うものです。



と夏野菜たっぷりの「夏の甲子園大カレー」を販売しました。学生たちはレシビ考案から店頭販売までを体験することで、創意工夫した料理を実践する楽しさと大変さを感じたことでしょう。

学として特別プレ出店した後、翌四日はスパイシーな「甲子園ポークビンダールカレー」、二十五日は鯖

この会は、兵庫県の若手農業者四団体で構成され、食と農を通じて次世代を担う兵庫県の子供たちの健康を守ることを目的としています。本学は、平成二十六年より連携して講座を開催しており、今年で九年目になります。
午前中は、兵庫県の特産品を使用して、カレーライスとハヤシライス、梅シロップを作りました。午後には、宝塚市のエアアイファームに移動し、オクラと巨峰を収穫しました。学生は食材について学ぶと共に、「みんな初めて一

八月二十四日、「たべるをはじめるの会」の第二回食育講座が開催されました。
この会は、兵庫県の若手農業者四団体で構成され、食と農を通じて次世代を担う兵庫県の子供たちの健康を守ることを目的としています。本学は、平成二十六年より連携して講座を開催しており、今年で九年目になります。

**連携食育講座
第二弾 開催**

から張り切っています。



食育を行いました。お母さんたちにとっては、食育パフォーマンスの和やかな雰囲気にも包まれて楽しく有意義な交流の機会となったようです。さらに工夫を凝らした食育パフォーマンスを目指そうと、学生は今

さる野菜や果物の名前を取り入れた手遊び唄を披露し、その後、食べ物影絵クイズを通じて

七月二十九日、栄養学科野間智子研究室で食育パフォーマンスを行いました。参加者は生後六月〜十一月の赤ちゃんとお母さんたちです。はじめに、親子でできる野菜や果物の名前を取り入れた手遊び唄を披露し、その後、食べ物影絵クイズを通じて食育を行いました。お母さんたちにとっては、食育パフォーマンスの和やかな雰囲気にも包まれて楽しく有意義な交流の機会となったようです。さらに工夫を凝らした食育パフォーマンスを目指そうと、学生は今



**食育パフォーマンス
栄養学科野間智子研究室**

学院生の活躍

中学校剣道部

⑨第五十三回兵庫県私立中・高等学校剣道大会
優勝
 団体 **3回戦**
 個人 **優勝** 三葉 礼(中二)



⑩兵庫県中学校剣道新人大会

⑨第五十三回兵庫県私立中・高等学校剣道大会
優勝
 団体 **優勝**
 個人 **準優勝** 橋本凜音(高一)
 (団体戦準優勝の結果を受けて、来年三月に行われる近畿高等学校剣道選抜大会および全国高等学校剣道選抜大会への出場が決定)



中学校バレーボール部

⑩西宮市中学校新人大会バレーボール大会 **優勝**
 ⑩阪神中学校新人大会バレーボール大会 **優勝**
 ⑩兵庫県中学校新人大会バレーボール大会 **優勝**



中高吹奏楽部

⑩日本管楽合奏コンテスト全国大会高等学校B部門 **予選通過**
音源審査
 ⑩日本管楽合奏コンテスト全国大会高等学校B部門 **最優秀賞**



大学 空手

⑩第四十回全日本空手道選手権大会 (CHAMPION CLASS) 一般女子 中量級55kg未満 **優勝**
 岡野 星織
 (栄養学部栄養学科1回生)



○かこみは開催月

私学の書展

十一月二十四日から二十九日まで、神戸三宮地下街さんちかホールにて、第五十五回兵庫県私学総連合会「私学の書展」が開催されました。会場では兵庫県下の私立学校の学生・生徒・児童の一二五作品が展示されています。その作品の中から、早川綾夏(高一)さん、星野結衣(小二)さんが特選を受賞しました。



特選(大阪教材社賞)
 高校一年 早川 綾夏
 特選(一休園賞)
 小学校二年 星野 結衣

入選
 小学校二年 宇野 真彬
 二年 茂山 結
 中学校二年 廣瀬安寿紗
 二年 小川 華依
 二年 土屋 公佳

教育振興基金

教育振興基金は、学院創立五十年記念事業の一環として平成二年一月から募金活動が始まり、以来三十二年がたちました。
 今年度は、令和元年度から五年間の第七期募金活動の四年度に当たっています。いただいた寄付金は、教育振興基金に収納し、その運用利子をもって、学校園内教育施設・設備等の購入に充当して、学院の教育環境整備に活用されました。
 令和四年度の充当物品等については下表のとおりです。今後ともご協力のほどよろしく願っています。

令和4年度 購入備品等

校種	購入した主な備品等
大 学	官能評価ソフト、分光光度計用ウルトラマイクロセルナノスティック、ビジネスプロジェクター、65型テレビ及びスタンド、複合機
短 大	Adobe Creative Cloud教職員版、カーテン取替工事(302教室他)、エアコン設置工事(エレビアン室他)
中 高	エアコン修理(校長室、教室、和室、音楽室、コンピューター室、ホール)
小学校	タブレット充電保管庫、大判プリンター、AED、ホームページサイト改修、鉄琴、入口ホールミラー、国語辞典
幼稚園	2階年長保育室ホール床改修工事、AED、プリンター、複合機

あとがき

◆二期期の園の輪をお届けします。コロナ禍の影響で例年とは違った内容や形式で開催した秋の運動会や文化祭・大学祭などの諸行事を紹介いたします。

園の輪

そのわ No.182

令和4年12月15日発行

学校法人 甲子園学院
 〒663-8107 西宮市瓦林町4番25号
 TEL. 0798(67)2100
 FAX. 0798(67)5488
<http://www.koshien.ac.jp/honbu/>